

中国鄭州における纏足女性の実態調査 大阪信愛女学院短大 川端厚子

目的 中国鄭州において纏足をしている女性に出会って纏足の実態と生活の状況について聴き取り調査を行った。そこで纏足の行われた社会的背景と纏足のなされた足や纏足を解いた足、及び纏足によって歪められた足の骨格などについて資料を得たので報告する。

方法 1993年の8月中旬から下旬にかけて中国鄭州において纏足女性の実態調査を行った。纏足の女性たちは、既に高齢であり、暑い時期であるから日中は殆ど外出しない。朝5:30-6:30 時頃までは、公園や歩道で散歩をしたり大極拳をしたり軽い運動をしている。このような時間帯に調査を行った。また日中は家庭を訪問したり、老幹部局の纏足女性を尋ねて調査を行った。調査は、聞き取り調査やマルチン計測器による測定を行ったり、纏足の足の骨格の状態をレントゲン撮影し形態的な把握を行った。調査は、看護婦3人の同行とレントゲン技師の協力を得て行った。さらにビデオカメラマンと写真撮影の技術者と通訳の協力を得て行った。

結果 鄭州においては、今も纏足の足に180cm-200cm の木綿の布を足に巻き付けて、その上にしずを履き、その上から纏足靴の黒布靴や綉布靴を履いている女性が見られた。纏足における歩行の状態や足底の接地状況などのビデオ撮影も行った。纏足の行われている足の骨格の状態をレントゲン撮影によってみると足の第1指を除く4指は、骨折しており足背の舟状骨は、アーチ型に湾曲しており、足部の骨格が無残に折り曲げられていることが見られた。本調査は、サントリー文化財団の援助を受けて行ったものである。